
アステリスク

(教員養成大学におけるセクシュアリティに関する意識についての実践研究)

※本報告書では、規範的男性と規範的女性に分類されない性の人を指して「LGBT」という語を使用しています。

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

アステリスク (教員養成大学におけるセクシュアリティに関する意識についての実践研究)

1. アステリスク (教員養成大学におけるセクシュアリティに関する意識についての実践研究)

電通ダイバーシティ・ラボが行った 2018 年の調査によると、LGBT の当事者とされる人の割合は約 8.9%。学校現場を基準に考えると、1 クラスに 2~3 人は存在することになる。

性的マイノリティの子どもたちは、いじめのターゲットとされることも多い。2016 年には「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について (教職員向け)」を文部科学省が公表。2017 年 3 月には「いじめの防止等のための基本的な方針」が改訂され、性

的マイノリティ児童生徒への配慮、支援に対する方向性も定められた。とはいえ、児童生徒への支援が順調に進められているかに関しては、依然として厳しい現実がある。静岡理工科大学 情報学部准教授 本多明生によって行われた小中学校の性的マイノリティ児童生徒への支援に関する全国調査の結果では、「小中学校では、教職員が性的マイノリティについて学習する機会が少ないこと、児童生徒への情報提供も行われていないことから、相談体制が十分に機能していない可能性が高いこと」が示唆されることとなった。職員向けの研修会を実施している学校も全体の 20% に満たない等、研修体制も不十分である現状が浮き彫りになっている。

教員養成大学である本学でも、セクシュアリティについて学ぶ講義が開講されているとはいえ、LGBT に関する基礎的な知識の理解、認識や支援の方法について不安を覚えている学生が多いという事が、昨年度実施したアンケートにより明らかになった。生徒、児童、そして同僚の教職員それぞれがのびのびと過ごせる学校づくりのためにも、セクシュアリティが尊重され、「自分らしさ」を侵害されないという環境の保証は重要である。また、互いのセクシュアリティを大切にす姿勢の育成を通して、自分がその気はなくてもだれかの「自分らしさ」を侵害する言動をとってはいないかを考える共生の精神への注目にもなるのではないだろうか。

本学では、将来教員として学校現場で働くことを志望する学生が多い。そこで、LGBT 当事者児童生徒への支援はもちろん、多様性の実現を目指すセクシュアリティ教育の在り方について考える機会の提供を目指し、プロジェクトを行った。

2. 代表者および構成員

・代表者氏名等

〔稲岡美和、国語領域専攻、3 回〕

・構成員氏名等

〔北出萌香、国語領域専攻、3 回〕

〔南口あゆみ、学校教育専修、1 年〕

〔高橋桜、国語領域専攻、3 回〕〔才川奏

美、国語領域専攻、3 回〕

3. 助言教員
〈井谷恵子先生、体育学科〉

第2章 内容や実施経過など

1. 講演会への参加

●「多様な性を考える～性別違和を乗り越えて～」

(1) 期間・場所

2019 年 7 月 27 日

奈良県女性センター

(2) 内容

- ・LGBT の基礎知識
- ・性同一性障害を乗り越え、性別適合手術を終えての講師自身の経験談、学生時代の葛藤などについての講演。

●「第3回 LGBT 研修会 in 大阪」

(1) 期間・場所

2019 年 8 月 22 日

大阪府助産師会館

(2) 内容

- ・公立中学校教員に対して行った調査や大阪市のパートナーシップ宣誓証明制度についての解説、ニュージーランドの同性カップルの家族形成に関する法律的諸問題を取り上げた講演。

2. 奈良レインボーフェスタ見学

(1) 期間・場所

2019 年 11 月 3 日

馬見丘陵公園

(2) 内容

2019 年のテーマは「一人ひとりが自分の種をまいて、奈良で笑顔の花を咲かせよう!」。LGBTQ や多様性を大切にす
る「ならレインボーカフェ」が奈良県で 2
回目の開催を迎える。馬見丘陵公園集い
の丘に様々なブースやフレンドリー企業
が集まり、ステージでは LGBTQ 当事者
によるトークショーやダンスパフォーマ
ンスが行われた。

3. レインボーカフェ

(1) 期間・場所

2019 年 11 月 10 日 (藤陵祭 3 日目)

10:00~16:00

C 棟ロビー (2) 内容

- ・コーヒー、紅茶、ジュースの販売
- ・LGBT に関する資料、動画、書籍の展示・クリアファイル配布
- ・レインボーフェスタ見学報告
- ・アンケート設置

4. DVD 上映会

「わたしらしくあなたらしく 多様な性を
生きる」

(1) 期間・場所

2019 年 12 月 18 日

第一部 13:00~14:30

第二部 15:00~16:30

(2) 内容

- ・「わたしらしくあなたらしく 多様な性を生きる」DVD 上映
- ・LGBT に関する基礎知識の勉強会・座談会

第3章 結果や成果など

1. 講演会への参加

(1)「多様な性を考える～性別違和を乗り越えて～」

越えて～」奈良県が主催する「これからを生きるヒント講座」の中の一講座として開催された。LGBT に関する基礎知識の確認、「マイノリティとマジョリティ」について考える方法などを、分かりやすくまとめられたスライドや、クイズを通して学ぶ機会となった。講演者の定政輝さんによる学生時代の「困りごと」について（例、友人にも本当の自分を伝えられない苦しみ、更衣室での着替えづらさ、二次性徴を迎えて変化する体への嫌悪感など）の講演を聞くことを通して、実際の学校現場でどのような場所、どのような時に配慮が必要かを具体的なイメージを伴って思考することができた。質疑応答の場面で講演者に対して「教員が、性教育や、学生生活の支援の中で子どもたちに関わる際、気をつけてほしいことは？」という質問を行った。これに対しては、「まずその子どもがどこまでの支援を求めているかを把握すること。また、最近はトランスジェンダーの人々の手術例もインターネットや SNS で簡単に知ることができる一方で、その副作用や手術後の後悔についてはまだまだ情報が出回っていない。教員自身がリスクもしっかり把握し、簡単に手術を勧めるなどについては控えてほしい。」というコメントをいただいた。

(2)「第 3 回 LGBT 研修会 in 大阪」

大阪府で行われた「性の多様性についての公立中学校実態調査」が講演の中で取り上げられ、学校現場に見られる生の多様性の受け入れられ方、教員の姿勢についてもデータで学ぶことができた。公立中学校において、性の多様性についての講習会や講演会に参加するのは 20 代、30 代の教員が多い。勤続年数 10 年以下の

先生はこうした多様性のあり方について関心が高いといえるようである。

しかし、文部科学省 HP に挙げられている「性同一性障害や性的指向・性自認に係

る、児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施について」に関しては、「分からない」「配慮していない」と回答した教員が圧倒的に多かったという。講演を通して、学校現場での性多様性についての教育方針や指導計画を明確化し、教員の意識の向上が求められている現状を把握できたことは参加したうえでの成果であった。

また、大阪で実施されているパートナーシップ制度がどのようなサポートを可能にしているか、他国の性の研究発表から、多様性についての教育の中で「性の多様性」を叶えるための社会の変化や事例を具体的に子どもたちに伝えるための知識のインプットを行う事ができた。



上：講演会で紹介された書籍

2. 奈良レインボーフェスタ見学

当日は曇り時々雨と天候に不安はあったが、公園内には様々なブースが並び、小さな子どもから老人まで年代を問わず多くの

人々が集まっていた。このフェスタでは、「LGBTQ や多様性を大切にする」ことをテーマの一環に挙げ、セクシュアリティについてだけでなく、障がいも多様性の一つとして取り上げる。イベントパフォーマンスやトークショーを通して、まさに「一人ひとりが自分色の種をま」くことで自分らしさを輝かせ、自分だけでなく、それを見ている様々な人たちにも「笑顔の花を咲か」せている様子を体感した。



フレンドリー企業や LGBT 支援団体のブースだけでなく、ハンドメイド作家や地元の整骨院などもブース展開を行っていた。「後者のブースを目的にフェスタに足を運んだが、パフォーマンスやポスターに目を向けることを通して、多様性について考えるきっかけになった」と語る参加者もいた。



フェスタの最後には、会場の参加者全体でバルーンリリースを行った。色とりどりの風船が天へ飛んでいく様子を眺めながら、多様性が尊重される社会の実現を願い、改めて自分たちに何ができるかを考えるモチベーションの向上につながった。



3. レインボーカフェ

昨年度に引き続き、C 棟ロビーにて展示を中心にドリンク提供も行うブース出展を行った。学外の方にプロジェクトを知ってもらう機会として、継続して行っている取り組みである。展示に加え、電子黒板を使って「わたしらしく あなたらしく 多様な性を生きる」の DVD を常時再生状態にしていたことで、映像や音声から興味を持って足を運んでくださる方が多かった印象を受けた。



今回新しく行った取り組みに「読み聞かせ」がある。昨年度は SDGs スタンプラリーの対象ブースになっていたため、高校生以下の子どもたちが多くブースを訪れたが、用意していた書籍の内容が難しく、手にと

って読んでもらう段階まで到達することができなかった。その反省を活かし、今年は絵本を中心に書籍を購入し、分かりやすい内容で子ども中心のアプローチを行うことを目標に取り組みを考えた。



結果として、この試みは成功したと考えている。簡単な言葉や色鮮やかな絵で、常に子どもの興味を引きながら多様性について触れる機会を提供することを可能とした。また、DVDの常時再生と同じく、視覚と聴覚の両方に働きかけることで、たまため通りかかった大人も読み聞かせの聞き手に加わる事もあった。

絵本や流行りのエッセイ漫画を使ったアプローチの方が、より多くの人に「多様性」について目を留めてもらうためには効果的だと実感できたのも今回の成果である。内容が簡単であることや、Twitterで人気があるエッセイ漫画を多く用意することで、「LGBTって？性の多様性って？よく分からないから手が出しづらい。」「興味はあるけど難しそう。」と捉えていた層にも、気



軽に情報や多様性のかたちについて触れ、考える機会を提供できた。

【アンケート結果】

(所属、年齢、企画を知ったきっかけ)

- 先入観のない幼児向きに絵本で伝えることが大切だと思うので昨年の展示を参考に本を購入して活用しています。(その他保ご者、50代、昨年もみたので)
- 絵本がとても参考になりました。子どもたちへのよみ語りに活用させていただきます。
- 読み聞かせが良かったです。展示もとても参考になりました。(京都教育大学の学生、20代、知人からのすすめ)
- 外部への発信も期待しています。(京都教育大学の教職員、50代、知人からのすすめ)
- 読み聞かせ、ファイルをもらえるなどの点が、良かった。ゆったりできる空間で、おちつける
(その他 龍谷大学生 20代 知人からのすすめ)
- 自分自身、LGBTについて何も知らなかったもので展示物や本を読むことで少し知識が広がった。地道に活動することで少しずつでも理解の輪が広がるのではないかと思う。展示物も見てくれる人が多く、なんとなく見た人が興味を持ってくれるような活動はとても良い。本も興味深かった。(京都教育大学の学生、20代、知人からのすすめ)
- 絵本の読み聞かせが子どもたちの関心をひいていました。また、本のチョイスも大学生が興味を持ちやすく、入り口になりやすそうだと思います。展示に関しては色が使われていて見やすく、年表もあり、知識のない人にも見易かったです。

(京都教育大学の学生、20代、知人からのすすめ)

- ・レインボーフェスタなどのイベントだけでなく映画などでも LGBT が取り上げられていることに驚いた。(京都教育大学の学生、20代、知人からのすすめ)

4. DVD 上映会

「わたしらしくあなたらしく 多様な性を生きる」2018年制作という、比較的新しい映像資料を用いて上映会を行った。

第一部の参加者は学部生3名、院生2名の計5名。第二部の参加者は学部生5名であった。昨年度

に比較し参加者の数は減少したが、「参加したいが、公立学校インターンのため日程が空いていない。別日の開催予定はないか。」という問い合わせは10件ほど届いた。学生課からの広報メールを見て、興味を持つ学生は参加者以上に存在することが確認できた。

カミングアウトをする/しない選択肢、一人一人が「わたしらしく」生きるためどのような選択を行い、葛藤があったのかを映像を通して学ぶ機会を提供した。参加者と共に性の多様性について考えたり、教育現場でどのように性の多様性を尊重する教育、支援ができるのかを話し合ったりする時間の充実を図った。

座談会の中では、参加学生の中から「LGBTの人だけに注目すると、マジョリティにあたる人は余計に自分には関係ない、というような感覚になってしまう可能性が

ある。」「LGBT」という言葉で分類しようとするのではなく、もっと一人一人が自分の性の在り方を自分らしきとして考える、SOGIの考えかたで授業を作るべきでは？」など、学生の中で将来の教育の在り方や支援の方法について熱く話し合う様子が見られた。

【参加者の声】



Q.DVDを見た感想を教えてください。・具体的によく分かりました。

- ・やはり、すごく身近なことだと考えることが大切
- ・あいさんが印象的だった。不器用に生きてる人がいるよ、という告白には勇気もらえる人がたくさんいると思う。
- ・自分のあり方について、悩みや悲しみを伴わないような「カミングアウト」と言った言い方すら必要としないような社会になれば良いなと思いました。
- ・当事者の方の活動が詳しく知れてよかった。
- ・当事者の意見が組み込まれており、新鮮だった。
- ・カミングアウトできなくて長い間悩んでいたLGBTの方が多くいて、もしかしたら自分のまわりにも隠して悩んでいた、もしくは今も言えずにいる人がいるかもしれないと考えさせられました。

Q.座談会の感想を教えてください。

- ・話しやすかったです。
- ・皆が自分らしくあれる社会が実現すれば幸せ。人は人を常に認めれば誰も人を否定しない世の中になるのにと考えたが、それが無理なのが日本。
- ・授業で扱う難しさを改めて感じた。私は、「LGBTs」という言葉は興味を持ってもらうための言葉として使って、「SOGI」の考え方を知ってもらいたいと思う。
- ・自分だけでは思いもしなかったことを聞くことができるとても考えさせられました。
- ・当事者ではない人の声がきけてよかった。
- ・普段交流しない方と意見の交換をすることができ、勉強になった。
- ・みわさんが、自分のことを、教員になったときにまわりにこういう人がいたんだよ、っていうモデルとして語ってくれたらと言ってくださって、教員になって自分ができることについて考えることができました。お話がきけて学びを深めることができ、本当に貴重な時間だったと思います。

Q.その他、なにかあればご自由にお書きください。

- ・参加して良かったです。
- ・貴重な時間をありがとうございました。
- ・このフォームを打つ時、LGBT と打ったら DVD に出てきた虹色の旗が出てくることを初めて知りました。これってシンボリックなものなのかな、と思って、知識が深まった気がして嬉しく思いました。

第4章 まとめと反省、今後の展望など

1. 外部の活動者から学び、次につなげる運営について

今年度は講演会への参加を昨年度に比べて増加させたことにより、「性の多様性」について最新のデータや正しい知識、支援の在り方などのインプットをプロジェクトメンバーそれぞれが意欲的に行うことができた。また、外部の団体や啓発者がどのような活動を行っているのかということや、周りの人々に興味を持ってもらうために行っているアウトプットの工夫について学んだ。こうした外部との関りの中で学んだ知識や知恵を活用することで、京都教育大学の学生に向けて行う活動やイベントでも、前年にはなかった取り組みを取り入れる等の積極的な挑戦を行う事に繋がった。

(1) 反省

全員が同じ講演会に参加する、という目標が達成できなかったことが反省点として挙げられる。今年度はメンバーのほとんどが教育実習、公立学校インターンなどでなかなか都合が合わず、参加できたメンバーが内容を他のメンバーに伝えるという方法を採用した。メンバーの中でもインプット、アウトプットを行うという点では成長につながった部分もあるかもしれないが、性の多様性に関する講演会、講習会の雰囲気を感じる上でも一度は全員での参加を行った方が良かったのではないかと考えられる。

(2) 今後の展望

積極的に LGBT や性の多様性に関する講演会、講習会の開催を探す経験を通して、全国の様々な場所で知識や先人の活動を学ぶ機会があることを学ぶ事ができた。学生に向けて発信活動を行う前に、まずはプロジェクトメンバー自身が主体的に学ぶ姿勢を今後も重視していきたい。自身が講演会などに参加する際は、自分の周りの学生や興味のある人に声掛けを行うなど、他の人

を巻き込んで行動に移すことも目指していく。

2. 性の多様性に関する学生の意識について

今年度の活動では、学生課からの広報メールを読んで直接アステリスクの代表にメールやラインを通して問い合わせを行う等、性の多様性そのものについてや、教育現場でどのように多様性を活かしていくかについて関しての興味や関心を持つ学生の存在が見られた。なかなか参加者やプロジェクトの賛同者を増やす事が厳しい状態は依然として続いているが、昨年度よりは多くの生徒が主体的に「性の多様性について考えてみたい」という意思を表明したと考えられる。アステリスクが継続して活動を行っている中での成果が少しずつではあるが学生にも影響を与えているのではないかと。

(1) 反省

アステリスクの主催イベントへの参加意思を表明してくれた学生が増え始めたとはいえ、京都教育大学全体の学生の数を基準に考えると、まだまだ教育大学全体としてLGBT や性の多様性について主体的に考え、動こうとする姿勢があるかと言われると厳しい現状がある。

今回は「参加したいが、日程が合わない」とする学生たちに対して、他の日程でも上映会を開催したり、座談会を開いたりするような対応策をとることができなかった。参加意欲がある学生に積極的に関わり、プロジェクトの応援者や協力者になってもらうための活動に繋げることができなかったことは反省すべき点である。

また、「アステリスク」自体の知名度が依然として低いことが課題点として挙げられる。授業前の広報活動や、ポスターの掲載な

ども考慮に入れながら、学校の中でのプロジェクト周知により力を入れる必要があると考えられる。

(2) 今後の展望

まずはアステリスクの活動に興味を持ってくれた学生に対する関わり方を見つめなおす。LGBT、性の多様性について学びたいと考える学生のニーズに答えた対応を考えることで、支援者の増加を図る必要がある。支援者を増やしていくことと並行して、より知名度を上げるための広報活動やその方法を考えながらプロジェクトの周知を図りたい。

<参考・引用文献>

・電通報「LGBT 調査 2018」

<https://dentsu-ho.com/booklets/347> (参照日2020.1.19)

・文部科学省「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について (教職員向け)」

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/_icsFiles/afieldfile/2016/04/01/1369211_01.pdf (参照日2020. 1.19)

・JASE 現代性教育ジャーナル 2019 年 No.95 発行日 2019 年 2 月 15 日
日本性教育協会

「小中学校における性的マイノリティへの現状と課題 全国調査の自由記述から」

静岡理工科大学 情報学部准教授 本多明生

・平成 30 年度 「アステリスク (教員養成大学におけるセクシュアリティに関する意識についての実践研究)」活動報告書

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/student/e-project/30-08.pdf> (参照日 2020.1.19)